

経済・金融 フラッシュ

9月マネー統計

～貸出の伸びが一服、金利は過去最低に

経済研究部 シニアエコノミスト 上野 剛志

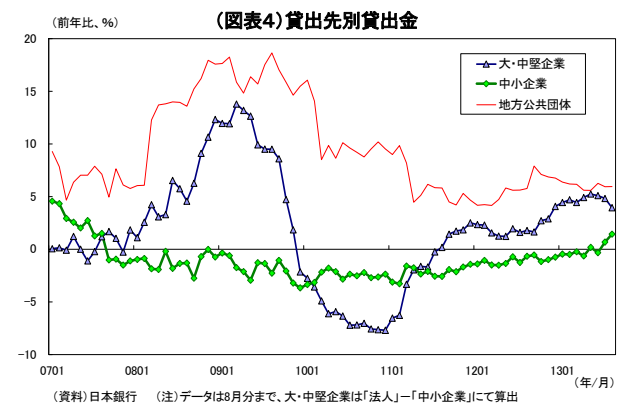
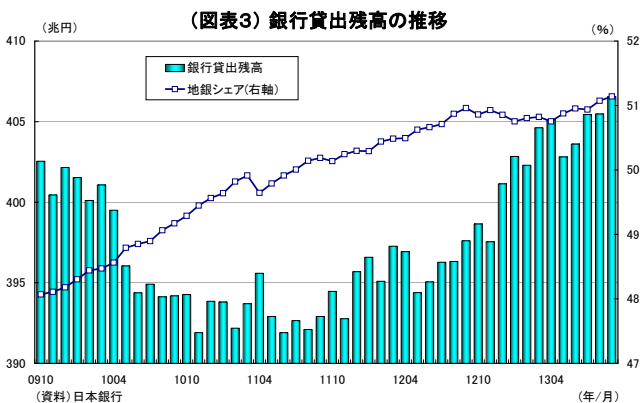
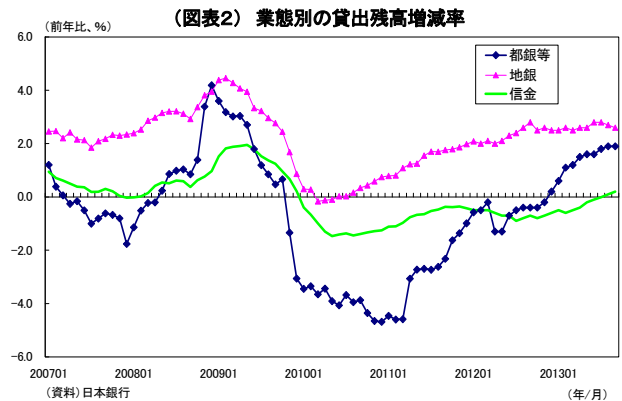
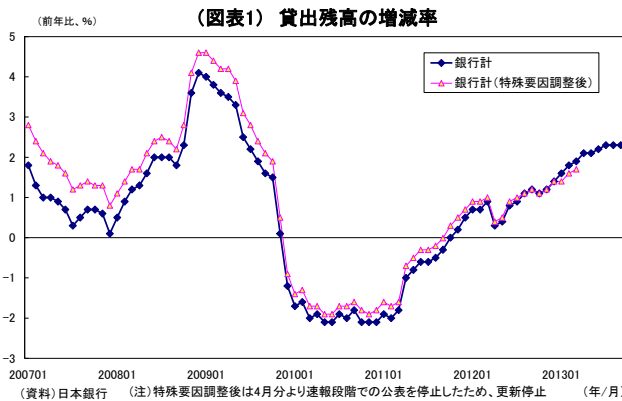
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：貸出金利は長短ともに過去最低に

日銀が10月10日に発表した貸出・預金動向(速報)によると、9月の銀行貸出(平残)の伸び率は前年比2.3%(前月も同じ)となった。引き続き、電力会社向けやM&A資金のほか、アベノミクスの追い風を受けた不動産向け、消費増税前の住宅駆け込み需要等に伴う個人向けなどが寄与した模様。

ただし、従来上昇傾向にあった伸び率は2ヵ月連続で横ばいになっている。すなわち、残高の増加基調自体は続いているものの、伸び率には一服感が出てきている。業態別では、都銀等の伸び率が1.9%(前月も同じ)と横ばいになったうえ、地銀(第2地銀を含む)が前年比2.6%(前月は同2.7%)と小幅ながら2ヵ月連続で縮小した。貸出先別(8月まで)では、中小企業向けの伸び率がプラス幅を広げる一方、大・中堅企業向けの伸びが縮小してきている(図表1～4)。

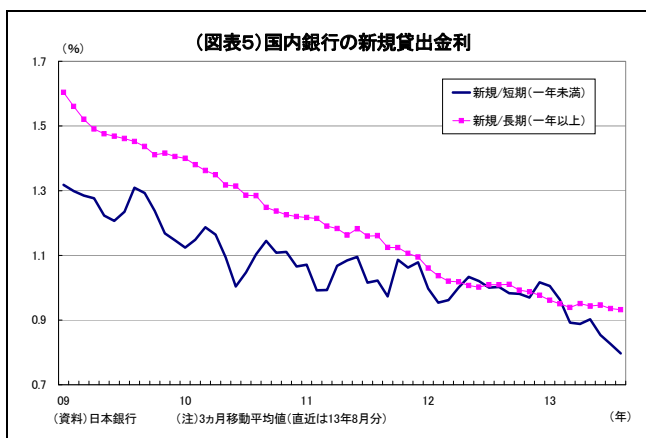
日銀短観9月調査における設備投資計画が小幅の上方修正に留まったように、企業の設備投資マ



インドは今ひとつ盛り上がっていない一方、手持ちの現預金は過去最高水準にあるため、伸び率の頭打ち傾向はしばらく続く可能性がある。

また、銀行の新規貸出金利（8月）は、短期（1年未満）が0.699%、長期（1年以上）が0.909%と、ともに統計で遡れる1993年10月以降で最低を記録した。振れをならすために3ヵ月移動平均で見ても下げ止まり感が出ていない。

日銀の異次元緩和が効いている証左とも言えるが、銀行貸出の採算はさらに厳しさを増している。



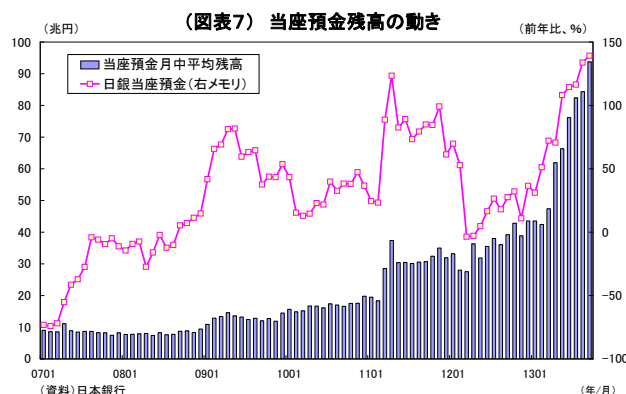
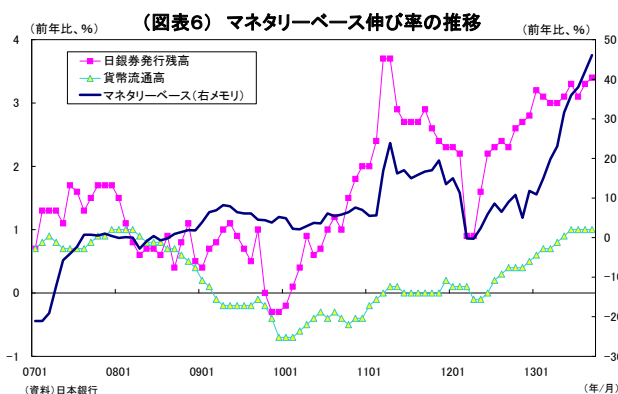
2. マネタリーベース：順調に増加

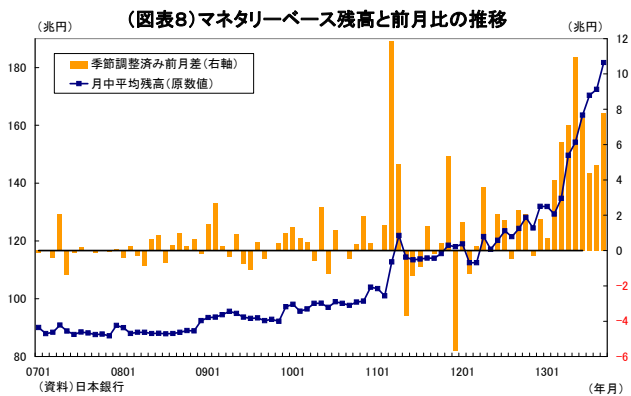
10月2日に発表された9月のマネタリーベースによると、日銀による資金供給量(日銀当座預金+市中のお金)を示すマネタリーベース(平残)の伸び率は前年比46.1%(前月は同42.0%)と拡大した。伸び率の拡大は8ヵ月連続となる。従来同様、異次元緩和に基づく大量の国債買入に伴い、日銀当座預金の伸び率が前年比139.2%(前月は同127.6%)に拡大した影響が大きい(図表6,7)。

この結果、9月末のマネタリーベース残高は185.5兆円と7ヵ月連続で過去最高を更新した(図表8)。

日銀は、マネタリーベースを「年間約60~70兆円」ペースで増加させ、13年末に200兆円程度、14年末に270兆円程度とする見通しを掲げている。単純に月換算すると毎月約5.0~5.8兆円の増加ペースになる。この観点から見ると、9月のマネタリーベースの前月比増加額は平残ベース(季節調整済み)で7.8兆円、末残ベース(季節調整前)では8.6兆円と目標達成ペースを大幅にクリア。7・8月の2ヵ月間は、資金吸収要因である国債の発行超が大きかったという特殊要因で伸びが鈍化していたが、9月には解消した。

マネタリーベースの13年末残高見通しは200兆円程度であるため、残り3ヵ月で14.4兆円(月当たり4.8兆円)程度の積み上げで見通し達成となる。達成すること自体は政策目標ではないとはいえ、明らかに未達の場合は日銀の異次元緩和運営に疑問が持たれかねない。ただし、これまでのところは順調に進んでおり、達成も十分視野に入っている。





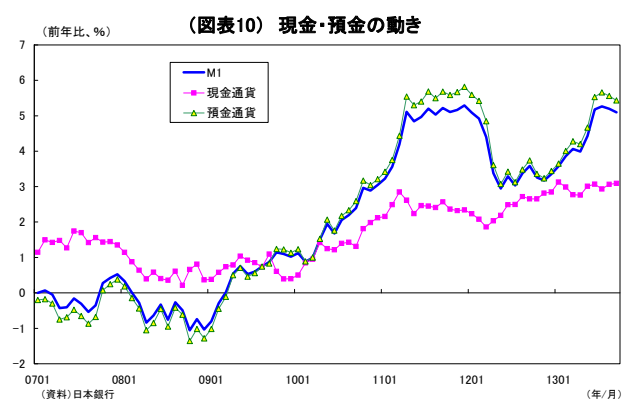
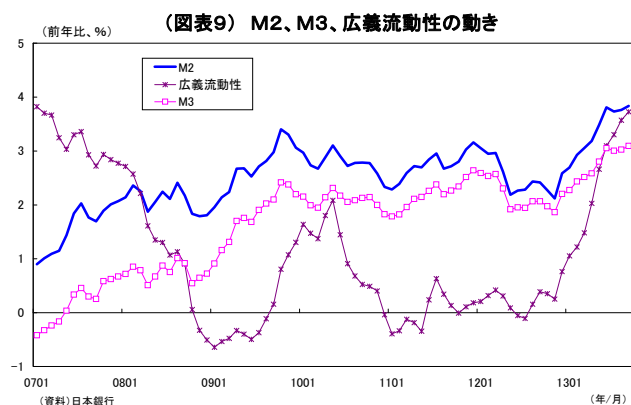
3. マネースtock: 投資信託の伸び率が2ケタ台に

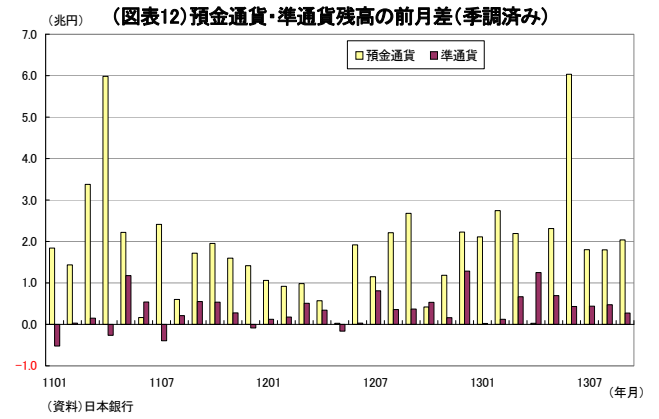
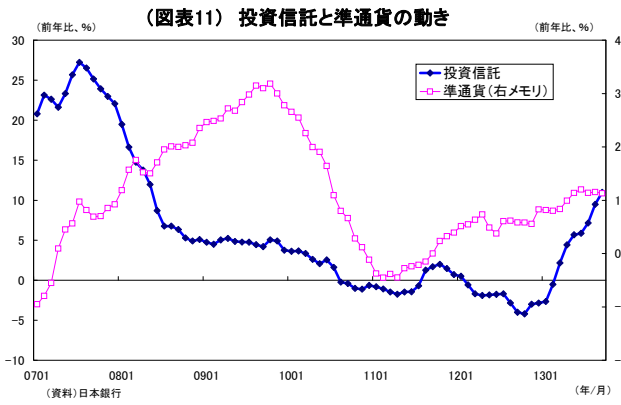
日銀が10月11日に公表した9月のマネースtock統計によると、市中通貨量の代表的指標であるM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高の伸び率は前年比3.8%（前月改定値も同じ）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同3.1%（前月は同3.0%）と、引き続き高めの伸びとなったが、6月以降はともに伸び率が一進一退となっている。

一方、M3に投信や外債といったリスク性資産等を含めた広義流動性の伸び率は前年比3.7%（前月改定値は3.6%）と続伸。伸び率の拡大は10ヵ月連続となった。

広義流動性の内訳では、投資信託（元本ベース、前年比+11.0%）、金銭の信託（同+8.8%）、外債（同+7.2%）などの伸びが高く、広義流動性全体を牽引している。とりわけ投資信託の伸び率改善は11ヵ月連続であり、その改善幅は2ケタ台に突入している（図表9～12）。

狭義のマネーの伸び率は近頃一服ぎみだが、一部で従来よりもリスクを選好する資金の動きが続いているため、広義のマネーとしては伸び率拡大が続いている。





(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。